

平成 18 年度 秋期 プロジェクトマネージャ試験 解答例

午後 試験

問 1

出題趣旨	
<p>情報システム開発のプロジェクトにおけるマネジメント手法として、アーンドバリューマネジメント（EVM）が定着してきている。EVM は、プロジェクトマネージャとして当然に知っていてほしい知識であり、確実に実践してほしい技法である。</p> <p>本問では、プロジェクトの特性、EVM の基本的な考え方について確認した後、EVM 報告書の読み方や、対策が EVM 指標に与える効果などの評価について問うている。EVM の基本的な内容について理解しているとともに、実務に適用する能力を有することを評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	帳票・画面の標準化について利用者の合意を得にくいことが想定されるから		
設問 2	(1)	進捗を成果物の完了と突き合わせて管理できるなど、作業の実態に即した管理ができることについて、適切に記述していること	
	(2)	成果物の品質が確保できないなど、不明確な完了基準の結果として起こり得る問題点について、適切に記述していること	
設問 3	(1)	a DB チーム	
		b 入出力チーム	
		c プロセスチーム	
	(2)	・プロジェクト全体の SV がマイナスとなるから ・プロジェクト全体の SPI が 1 以下となるから	
設問 4	(1)	理由 設計が完了した時点の出来高比率が決められていないから	
		マイルストーン 設計完了時	
	(2)	承認が得られず、手戻りが発生する。	
	(3)	d 高くなる	
		e 高くなる	
		f 低くなる	
		g 高くなる	

問 2

出題趣旨	
<p>情報システム開発プロジェクトにおいては、開発の対象となるシステムだけでなく、関連するほかのシステムの状況や、新たに発生してくる要件などへの対応を考え、プロジェクト計画を策定・改訂することが重要である。その際、仕様の整合性の確保や、要員、プログラムなどのリソースを最大限、有効に活用する観点が重要である。</p> <p>また、複数の開発グループの作業が並行して進むケースにおいて、それぞれの作業を連携して進めるために、複数の開発グループ間で情報を共有する情報管理の仕組み（ルール）が必要である。</p> <p>本問では、これらの基本的な考え方について具体的な対応を問うことで、プロジェクトマネージャに求められる能力を有していることを評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	(1)	現行システムの改修が、新システムで対応が必要なものであるかを選別する。	
	(2)	結合テスト完了までに対応できる現行システムの改修だけを対象とするなど、D 社が請負契約の完了時期を守るための条件について、適切に記述していること	
	(3)	新システムでの対応が可能なことを実施の条件とするなど、D 社の対応条件を基にした現行システムの改修に対する制約について、適切に記述していること	
	(4)	a 費用	
設問 2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 次開発を経験したノウハウのある要員を投入できるようにする。 ・ 結合テストレベルの品質を確保したプログラムを使用できるようにする。 	
設問 3	(1)	改造の場合の品質管理の基準値や目標値	
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 摘出したバグが、他グループの開発部分のバグであった場合 ・ 摘出したバグが、他グループの開発に影響するおそれがある場合 	

問 3

出題趣旨	
<p>順調に進んでいると思われる情報システム開発プロジェクトにおいても、予期しなかった事情によって、当初計画どおりに進められなくなる場合がある。プロジェクトマネージャは状況の変化を的確に見極め、リスクを分析し、その対策を講じることによって、プロジェクトが目指している品質・コスト・納期（いわゆるQCD）を達成するように努めなければならない。</p> <p>本問では、スケジュールと要員計画の見直しについて、体制面でのリスク、プロジェクトの特性などをプロジェクトマネージャが十分に認識した上で、適切な判断を行う能力や、プロジェクト運営を効率的かつ的確に行うために工夫する能力を有していることを評価する。</p> <p>管理図については、プロジェクトマネージャの必要知識として兼ね備えておいてもらいたいことから例示した。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	(1)	a 製造・単体テスト	
		理由 複数の作業を独立に並行して行えるから	
	(2)	・追加メンバの開発経験不足による生産性の低下 ・追加メンバの開発経験不足による品質の低下	
	(3)	外部設計を実施済みの部分の見直し	
設問 2	(1)	工夫 レビュー参加者による資料の事前確認	
		効果 レビューでの指摘漏れの防止	
	(2)	作成担当者以外が指摘事項の一覧と修正後の内部設計書を突き合わせて確認するなど、指摘事項が内部設計書に反映されていることを確認するために指摘事項の一覧を利用することについて、適切に記述していること	
	(3)	・反映を確認した者の署名欄 ・反映の確認日欄	
設問 3	(1)	・内部設計書の品質について定量的に分析を行う。 ・内部設計書の品質について客観的に分析を行う。	
	(2)	・外部設計書が明確に記述されていない。 ・開発経験不足で外部設計書の理解が不十分である。	
	(3)	・開発経験の有無 ・作成担当者	

問 4

出題趣旨	
<p>情報システム開発のプロジェクトマネージャには、プロジェクトの責任範囲を明確にすることや、プロジェクトで見込まれる課題を早期に把握して確実に対応する能力が必要である。</p> <p>本問では、オープン系のシステム開発プロジェクトにおいて、アプリケーションソフトウェアの開発とシステム基盤の設計・構築を行う場合を設定し、課題の早期把握・早期対応の具体例として複雑な機能要求と高い性能目標を達成するためにプロジェクト運営面で行うべきことや、委託者に対して交渉する能力、委託者側から出された追加要件に対してプロジェクトに与える影響を把握して対応する能力について評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	(1)	ケース 通信設備の性能に問題がある場合	
		項目 性能目標の達成に対する K 社の責任範囲など、責任をもって性能目標を達成するための条件について、適切に記述していること	
	(2)	単位時間当たりの受付件数の最大値など、処理負荷の上限について、適切に記述していること	
	(3)	標準に則したプログラムを作成し、性能を検証するなど、プログラムを使用した性能評価を行うことについて、適切に記述していること	
設問 2	(1)	性能目標の達成に悪影響を与える機能の有無	
	(2)	メリット 進捗が客観的に把握できる。	
		デメリット 承認が得られるまでの進捗が把握できない。	
設問 3		仕様変更は Q 氏を通して L 課長に申し入れるように、P 社担当者へ依頼する。	
設問 4	(1)	追加開発は新システム稼働後に対応する。	
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 稼働開始日遵守とリアルタイム連携機能実現の優先順位 稼働開始日におけるリアルタイム連携の必要性 	